

前回の通信は、四月。そのときは、五月の連休明けに学校再開の予定でした。「先が見えない……」そのことだけは分かっていたつもりでしたが、度重なる計画の変更に、学校は毎週、対応に追われることとなりました。

分散登校、午前中授業……と徐々に日常を取り戻し、五月二十五日からようやく通常の時間帯で学校生活が再開。しかし、再開後の学校では、子どもたちは朝からマスク姿で登校。「元気の良い声で挨拶！」とも言いきく、顔をのぞいても表情が分からない。子どもも先生も不便を感じながらも「やっぱり学校がいい。」と言ってくれる子どもたちに感謝して、この状況を乗り切っていくと思います。

## 「チーム学校」って何？

「非常事態宣言」の解除後、少しずつ人の動きが戻ってきて、学校にもいろいろな方が挨拶に訪問されました。

交通安全指導員、児童クラブ、まちづくり協議会、放課後等デイサービス事業所、そうだんサポートセンター、市子育て支援課、駅前交番……支えていただいていることへの感謝と安心感を深く感じたところで。

教育の現場では「チーム学校」という言い方があります。これは、学校が、保護者のもとより様々な人材や機関とつながり、互いに協力しながら子どもたちを育てる集団になるという意味です。ちなみに、言葉の生まれは「ワン・チーム」より先です。

子どもたちの心や体の悩み、友だち関係、生活習慣……健全な成長のためには、学習のほかにいろいろな方面から支援が必要です。子どもを取り巻く環境が急激に変化する中で、学校と保護者だけが一緒にあって対応しても、見えな部分がたくさんあることが分かってきました。

そこで生まれたのが「チーム学校」という考えです。複雑化する課題に対して、専門の立場からのアドバイスや直接的な支援など、学校の機能では持ち合わせない部分を大いに補っていただいております。

子どもたちにも、保護者、地域の方、そのほか多くの方に支えられていることを伝え、感謝する気持ちを育てていきたいと思えます。

## 今日、何回？

やっと一区切りがついたような？コロナ対策。これまでは、国も細切れに対策を示していましたが、今回ようやく本校なりの「ガイドライン」をまとめることができました。お読みいただけたいでしょうか。

学校での「三密」のうち、もっとも避けることが困難なのは「密接」です。日本の学校は、机がひとりにつき用意されておりがたいわけですが、それでも子どもどうしの接触（ふれあい？）をしない状況をつくることはできません。一旦感染すれば、クラスターとなる確率は高いといえます。そこで、今、子どもたちに重点的に指導しているのは「手洗い」です。お子さんに聞いてみましょう。

「今日、何回手を洗った？」

## ありがとうございました！

市内では一番早い？参観日となった3日には、お忙しい中、多くの保護者の皆様に参加いただきましてありがとうございました。ようやく保護者の皆さんとスタートが切れたような、ほっとした気持ちになりました。新しい担任の顔もマスク越しながらご確認いただけただけでしょうか？紹介が遅れましたが、ひとまず確認のために、裏面に今年の職員の写真を載せます。名前はお子さんにご確認ください。今後ともよろしく願いいたします。

紹介がたいへん遅くなりましたが・・・

## 令和2年度小林市立南小学校職員です。



どうもはっきりしない場合は、遠慮なく学校にて、直接お確かめください。

一年間、よろしくおねがいたします。